

平成 28 年度分担研究報告書
妊婦抗体スクリーニング体制の整備

研究分担者

木下勝之(日本産婦人科医会・会長) 関沢明彦(日本産婦人科医会・常務理事)

研究協力者

・木下班

宮崎亮一郎(日本産婦人科医会・常務理事) 栗林 靖(日本産婦人科医会・幹事長)
塚原優己(日本産婦人科医会・副幹事長) 田中政信(日本産婦人科医会・顧問)

・関沢班

相良洋子(日本産婦人科医会・常務理事) 鈴木俊治(日本産婦人科医会・副幹事長)
松田秀雄(日本産婦人科医会・幹事) 星 真一(日本産婦人科医会・幹事)

研究要旨

本研究事業の目的は、HTLV-1 キャリアの母親で児の栄養法による母子感染状況等を検証し、わが国の HTLV-1 母子感染予防法の確立に寄与することである。日本産婦人科医会としては、本研究事業の遂行状況をみながら、全国の日本産婦人科医会会員に本研究への協力を要請するとともに、検査で陽性となった妊婦とその児に対して適切な情報提供とその後のケアが行えるように、会員に HTLV-1 母子感染予防の重要性を啓発していくことを目的としている。

その目的の実現のために、平成 26 年度は、HTLV-1 スクリーニングの現状を全国の産婦人科医を対象に調査することで検査実施上の問題点を抽出した。27 年度は、HTLV-1 母子感染対策協議会の設置状況を調査し、活動状況や産婦人科医や小児科医の参加状況を調査したが、地域による差が大きいことが分かった。そこで、地域での HTLV-1 に関する啓発が必要であるという認識から、平成 28 年度は日本小児科医会とも連携し、産婦人科医、小児科医、行政担当者(保健師なども含む)を対象にした講演会を各都道府県で開催できるように、講演用スライドを作成した。このスライドを全国の都道府県産婦人科医会に配布し、講演会を開催するように依頼する予定である。産婦人科医の中で HTLV-1 についての知識とそのカウンセリング法を啓発すること、および小児科医の中でも児のフォローの重要性を啓発することにより、また、行政担当者にも理解を促すことで、地域における HTLV-1 母子感染対策の充実度が高まることが期待される。

A. 研究目的

本研究の目的は HTLV-1 キャリアの母親で児の栄養法による母子感染状況等を検証し、わが国の HTLV-1 母子感染予防法の確立に寄与することである。日本産婦人科医会としては、本研究事業の遂行状況をみながら、全国の日本産婦人科医会会員に本研究への協力を要請するとともに、HTLV-1 検査で陽性となった妊婦およびその妊婦から生まれた児に対して適切な情報提供とその

後のケアが行えるように、会員に HTLV-1 母子感染予防の重要性を啓発していくことを目的としている。

本研究の最終的な目標を実現するためには、出生した児の栄養指導やフォローアップ体制をより強固にするため、HTLV-1 の母子感染予防と HTLV-1 キャリア妊婦および出生児への医療および支援体制の整備がこれからの目標になる。

これまでの研究で、HTLV-1 の妊婦のスクリー

ニング検査は行われているものの、実際にキャリアと診断された母親、そしてそこから出生した児のフォロー体制に不備があることが確認されている。都道府県単位の取り組みとしてうまくいっている地域では、産婦人科医のみではなく行政、保健師、小児科医を集めた講習会を定期的に行っており、特に、行政の関心が高まることで、キャリアと診断された母親のフォローアップおよび、その母親から生まれた児の哺乳やその後の母子感染のフォローなど系統的にできるようになったとの報告がある。そこで平成 28 年度は、日本小児科医学会とも協力して、産婦人科医のみではなく小児科医も含め、また、行政担当者(保健師を含む)にもわかりやすい講演会を各地域で開催できるようにすることが、重要であるとの考えから、各地域での講演会の開催を支援するため、講演用の資料の作成に取り組むことを目標とした。

B.研究方法

講演用の資料として充実した内容とするため、まず、講演用のアジェンダを作成した。その内容は、HTLV-1 の歴史、成人 T 細胞性白血病について、HAM について、HTLV-1 感染経路・疫学、母子感染についての知見、インフォームドコンセントの仕方、母児のフォローアップについて、などについて資料を整理して Power Point でスライドを作成する。また、スライドについての解説も付加することで、各地域で講演が行えるようにする。

C.研究結果

講演用の資料として、HTLV-1 の歴史、成人 T 細胞性白血病について、HAM について、HTLV-1 感染経路・疫学、母子感染についての知見、インフォームドコンセントの仕方、母児のフォローアップについて、などについて資料を整理して 45 枚からなる Power Point のスライドを作成した。資料は PDF として巻末に添付する。

D.考察

地域での HTLV-1 に関する啓発が必要であるという認識から、平成 28 年度は日本小児科医学会とも連携し、産婦人科医、小児科医、行政担当者(保健師なども含む)を対象にした講演会を各都道府県で開催できるように、講演用スライドを作

成した。このスライドを全国の都道府県産婦人科医学会に配布し、講演会を開催するように依頼する予定である。産婦人科医の中で HTLV-1 についての知識とそのカウンセリング法を啓発することと、小児科医の中でも児のフォローの重要性を啓発することにより、また、行政担当者にも理解を促すことで、地域における HTLV-1 母子感染対策についての認識が深まり、地域における医療体制の充実度が高まることが期待される。

次の課題は、感染が確認された妊婦(キャリア妊婦)とその児の授乳期をフォローするシステム、児での母子感染の有無を検査する機関の整備、また、その後に発生するいろいろな疑問や心配を相談できる窓口の整備などを各地域で構築していくことが課題である。キャリア妊婦が母子手帳に挟んで使える HTLV-1 ノート(仮称)などをもたせてそこに情報を盛り込んでおくことでサポートが必要になった時に正確な情報を基に支援にアクセスできるようなシステム作りも考えられ、次年度以降の取り組みとして検討する予定である。

E.結論

地域での HTLV-1 に関する啓発が必要であるという認識から、平成 28 年度は日本小児科医学会とも連携し、産婦人科医、小児科医、行政担当者(保健師なども含む)を対象にした講演会を各都道府県で開催できるように、講演用スライドを作成し、各都道府県産婦人科医学会に配布した。この資料を用いた講演会の開催が期待される。

F.健康危険情報

特になし

G.研究発表

1.論文発表

特になし

2.学会発表

特になし

H.知的財産権の出願・登録状況

なし